

地球温暖化防止活動推進員密着レポート



富士見町の細川木材㈱が主催する「**大人のための植林体験**」が11月5日、同町で行われました。機械化が進む林業の中で、植林はいまだに人の手が頼りです。林業に従事する人が少なくなってきた今、環境問題に興味がある方にも林業に関わっていただきたいと、諏訪湖の水草を堆肥化し山に戻す活動をしている**県推進員の中村義幸さん(下諏訪町)**にお話しをしていただきました。植林した木によるCO₂の吸収に加え、堆肥によるCO₂の固定化、苗木の成長促進による下草刈りの軽減が見込めることなどの説明に、参加者の方からは「今後も地域の宝を活用する活動に参加したい」「後の世代のためになる活動ができた」といった声が寄せられました。

(細川木材株式会社山林部 清水 愛希代)

脱炭素社会の実現に向け、木島平村は10月29日、**県推進員の有賀宏道さん(小諸市)**を講師に、**講演「家庭でできるエコ活動」と発電体験イベント**を村若者センターで開き、村内外の子どもから大人までの約20人が参加しました。発電体験では、電流を流すと片面が熱く、その裏面が冷たくなる板状の電子部品「**ペルチェ素子**」を使って実験。お湯と氷で挟んで温度差で発電させモーターが動く様子に参加者は興味津々。このほか、ソーラーカーや手回し発電機などで、さまざまな発電方法を楽しみながら学びました。有賀さんはゼロカーボンについて解説し、「SDGsを意識し、大人と子どもがともに考え、自ら行動し、地域で積極的にエコ活動に取り組んでほしい」と呼びかけました。

(県センター)



ソーラークッカーのある暮らし

小谷生活エネルギー研究所 新井 東珠 [小谷村]

「自然エネルギーとは何ぞや?難しいことは分らん」とよく聞く。いやいや身近にあるものですよと、ソーラークッカー実演を各地で実施している。最も多い質問は「ヤカンのお湯は何度まで上がるの?」というものだ。答えは「沸騰します!」だ。ポコポコと沸騰するヤカンをのぞき込み、皆さん驚いている。電気やガスも使わず熱々のお湯がゼロカーボンで得られる。なんとスバラシイことか。私自身、天気の良い日は本業の自転車屋の店先でヘビーユースしている。小一時間の作業が終わるとお湯が待っている。それだけではなく、ソーラークッカーを生活に取り入れてからは空をよく見るようになった。雲や風の様子で沸騰までの時間が変わるからだ。直径80cmのソーラークッカーで1ℓの水を沸騰させるのに30~40分、これに対し電気ケトルでは約6分。みなさん、この時間の差をどう受け止めますか? 2050 信州ゼロカーボンに向けては、自然本来の時間軸を意識することも大切ではないかと考えています。

